

16 マスの穴空き数当てカードの作り方

作り方

1. 用意するもの

- (a) 画用紙 6 枚 (3 枚を半分^{はんぶん}に切って 6 枚にしてもよい)
- (b) ハサミ (カッター^{つか}が使えるのならカッターでもよい)
- (c) 黒と赤 (青^{あお}でもよい) のペンかえんぴつ

2. 画用紙 6 枚に縦 3 本、横 3 本の線を書いて 16 マスを作る。

紙^{かみ}を 4 つ折りにして折り目^{おめりよう}を利用するときれいに書ける。

3. そのうちの 1 枚に下のように黒いペン (かえんぴつ) で 0 から 15 までの数字^{すうじ}を書く。

4	0	15	11
13	6	9	2
10	14	1	5
3	8	7	12

別の 4 枚にも黒^{くろ}で同じ場所^{おなじばしょ}に数字^{すうじ}を書き、残りの 1 枚には赤^{あか} (または青^{あお}) で同じ場所^{おなじばしょ}に数字^{すうじ}を書く。赤 (または青) の紙は中^{ちゆうしん}心にやや小^{ちい}さめに書くとよい。

4. 黒の5枚のうち4枚には、下のよう^{した}にそれぞれ8つずつの場所^{ばしょ}に切り取り線^{きと}用の四角^{せんようしかく}を書く。四角は、マス^{かしかく}の線^{せん}より少し内^{すこ}側^{うちがわ}に書くとよい。

1枚目

4	0	15	11
13	6	9	2
10	14	1	5
3	8	7	12

2枚目

4	0	15	11
13	6	9	2
10	14	1	5
3	8	7	12

3枚目

4	0	15	11
13	6	9	2
10	14	1	5
3	8	7	12

4枚目

4	0	15	11
13	6	9	2
10	14	1	5
3	8	7	12

5. この4枚の黒い四角^{まいくろしかく}をハサミ^き（またはカッター^{あなあ}）で切りとって穴^あを空ける。ハサミの場合^{ばあい}は、穴^{あな}の真^まん^{なか}中^{かみ}で紙^{かる}を軽^おく折^きってハサミ^きで切りこみ^いを入れて、そこ^きから切るとよい。カッター^{ばあい}の場合は、下^{した}に古^{ふる}い新聞紙^{しんぶんし}などを置^おくとよい。

つかかた 使い方

- 赤^{あか}（または青^{あお}）で書いた紙^かは自分^{かみ}の前^{じぶん}に台^{まえ}を用意^{だい}して表^{ようい}にして置^{おもて}いておく。
- まず黒^{くろ}い16マス^{かみ}の紙^みを見^みせて、そのうち^{すうじ}の1つ^{えら}の数字^{すうじ}を選^{えら}んでもらう。
- 穴^{あな}を空^あけた1枚^{まい}目^めを見^みせて、その中^{なか}に選^{えら}んだ数字^{すうじ}があるかどう^きかを聞^きく。
「ない」と答^{こた}えたら、それ^{おもて}を表^{あか}のまま赤^{あお}（または青^{あお}）の紙^{かみ}の上^{うえ}に重^{かさ}ねる。
「ある」と答^{こた}えたら、それ^{さゆうはんたい}を左^{うらがえ}右^{あか}反^{あお}対^{かみ}にして裏^{うえ}返^{かさ}して赤^{あか}（または青^{あお}）の紙^{かみ}の上^{うえ}に重^{かさ}ねる。
- 穴^{あな}を空^あけた2枚^{まい}目^め、3枚^{まい}目^め、4枚^{まい}目^めも同^{おな}じよう^きに聞^きいて重^{かさ}ねていく。そう^{さいご}すると最^{さいご}後に^{さいご}穴^{あな}から赤^{あか}（または青^{あお}）で見^みえている数字^{すうじ}が答^{こた}えになる。

なぜそうなるのか

- 1枚目から4枚目の穴空きのカードに残してある数字は、前の数当てと同じ数字の組になっている。
- 左右反対に裏返すと、表の穴の部分が全部穴でなくなり、逆に穴でなかった部分が穴になるようになっている。(足して15になる数を左右反対の場所に置いているのでそうなる)
- だから「ない」でそのまま重ねるとそのカードの表の数の部分が赤い数字を全部隠してしまっ見えなくなる。逆に「ある」で裏返して重ねると、そのカードの表の数の部分が全部穴になって下の赤い数字が見えるようになっている。

発展

穴空きカードの場合は足し算はしなくてもいいので、当てるのは数字でなくてもよい。記号でも模様でも絵でも文字でも同じ手品ができることになる。

○	△	□	+
◎	▽	◇	×
→	↓	←	↑
⊥	⊥		==

鱒	鯛	鯨	鯉
鰹	鮪	鮭	鯖
鮪	鰻	魚	鮑
鱈	鮪	鱸	魚